

II

農林水産業を取り巻く情勢

農林水産業を取り巻く情勢

◇地球規模での気候変動の影響

近年の地球温暖化等の地球規模での気候変動は、高温による農産物の収量・品質低下や海水温上昇による漁獲量の減少、豪雨、豪雪、強風さらには地震による農業用施設等への被害など、その影響は顕在化しつつあり、その適応策の確立が求められています。

◇世界の食料需給等の見通しとグローバル化の進展

世界人口の増大や各国の経済成長に伴い、今後も世界の食料や飼料、エネルギー、肥料・原料等の需要の増大が続くと見込まれています。また、各国の経済連携に向けた動きも進展していくと考えられ、国内における食料安定供給と国内産の農産物価格への影響が懸念されます。

また、一方で、世界的に日本食や日本の食文化に対するニーズが高まりつつあり、今後は、海外市場を視野に入れた販路拡大の動きが活発になると考えられます。

◇高齢化や人口減少による食料・農山漁村への影響

世界人口の増大が予測される中、日本国内においては、高齢化が進行するとともに人口減少が本格化し、食料消費量の減少、国内の食市場の縮小が懸念されます。

また、農山漁村においては、農林水産業者の高齢化による担い手不足が深刻となり、農地の荒廃化などにより、多面的機能が発揮できなくなるとともに集落コミュニティの維持が困難となっています。

◇食に対して多様化する消費者ニーズ

成熟社会や高度情報化社会が到来し、女性の社会進出や単身・高齢者世帯の増加、また、ライフスタイルの変化などにより、食に対する消費者のニーズが多様化し、今後は、こうした動きが更に進展するものと考えられます。

また、東日本大震災での原発事故、高病原性鳥インフルエンザなどの家畜伝染病の発生等により、消費者がより安全で安心な食を追求するため、市民の農林水産物や農山漁村に対する関心が、一層、高まることが予測されます。